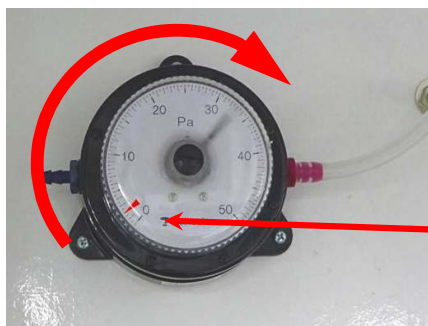




「TVで見て初めて知った」とよく言われます。
Tri-Heartの「陰圧式救急車」です。
感染力が高い疾患（結核、SARS、コロナ、水痘、麻疹）の
傷病者の搬送を想定しております。
現在、日本国内に4台存在します。（2021年6月）

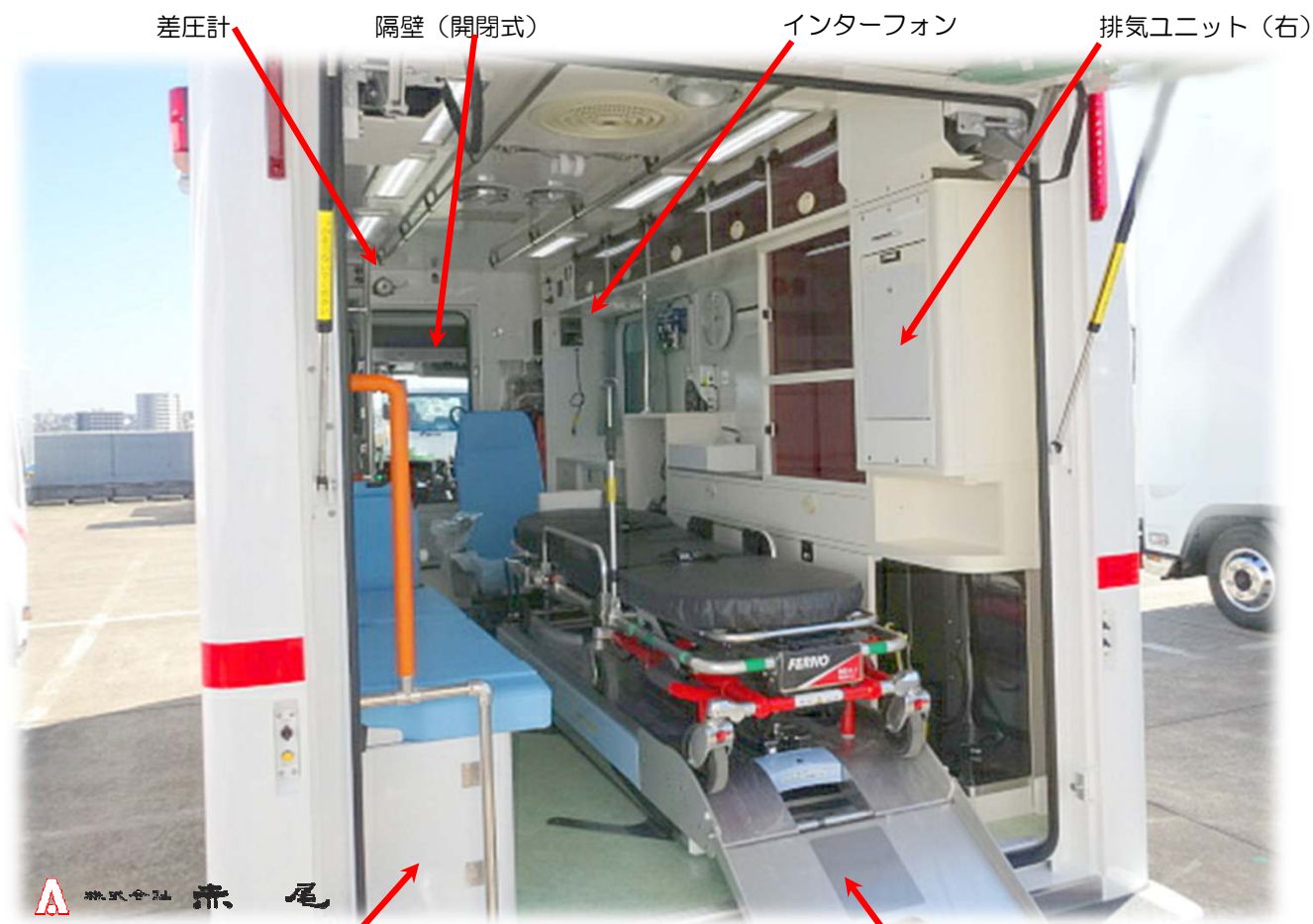
病院と同じCDCガイドラインに沿った陰圧装置を搭載。
陰圧状態での自動空調も完備しています。

気密性を高めるため、製作段階から一つ一つの小さな
隙間を埋めながら造りますので、完成時には実測で
－2Paを遥かに上回る差圧が得られます。



陰圧装置作動の状態
赤い印が、－2Paです。大幅に振り切っています。

内装は、一般的な高規格救急車と同じにしてありますので、通常の救急業務に使える仕様になっています。
今回は、内装色を白と低ライトトーン値のパステルブルーで統一させました。
また新型防振架台の斜めスライド機能の特性を活かすべく、右キャビネットは排気ユニット以外をスリム化し
ドクター同乗時でも処置がし易いように、室内を広くしています。




差圧計

隔壁（開閉式）

インターフォン

排気ユニット（右）

 赤尾

排気ユニット（左）

防振架台 赤尾**VCS-03**（耐荷重285kg）

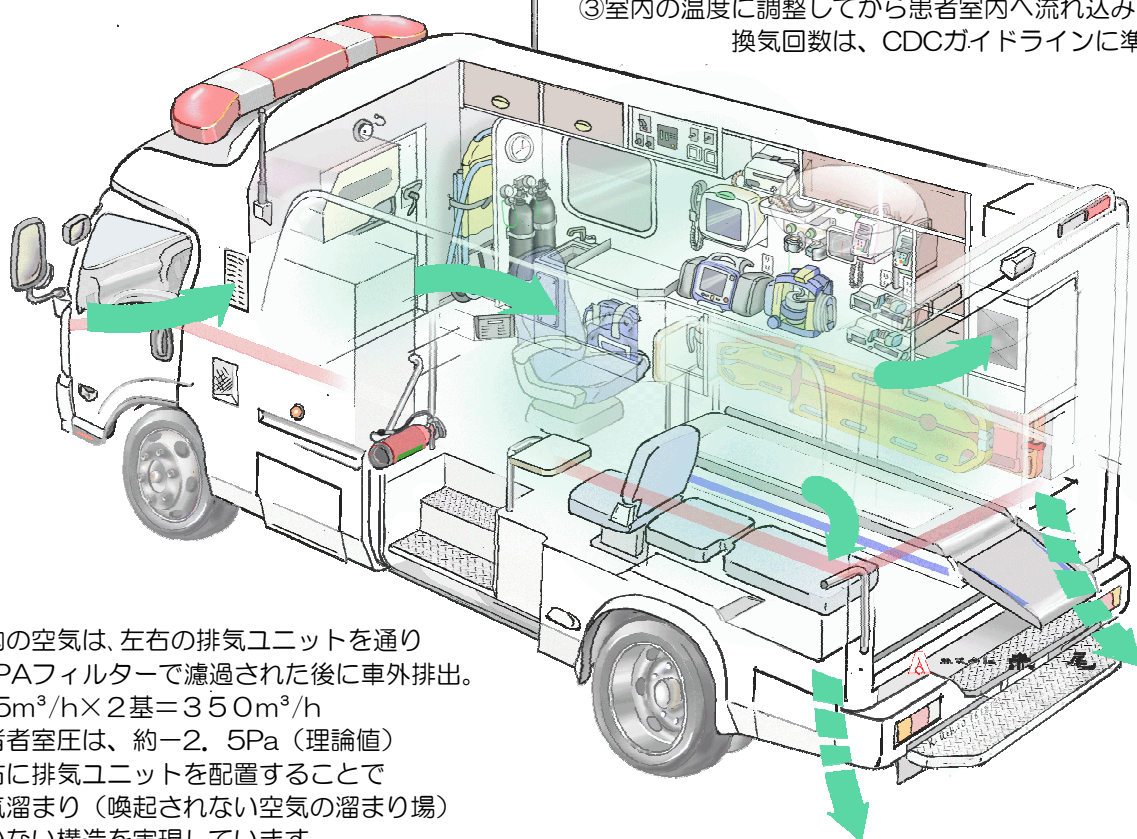
<https://akao-co.com/products/2860/>

ストレッチャー FERNO 93HJ（耐荷重227kg）

<http://www.ferno-jp.com/product/93H-J/93H-J.html>

陰圧式救急車の吸気・排気イメージ

- ①左前の吸気ユニットから外部より新鮮な空気を320m³/h吸気
- ②電気の集塵フィルターで濾過
- ③室内の温度に調整してから患者室内へ流れ込みます
換気回数は、CDCガイドラインに準拠



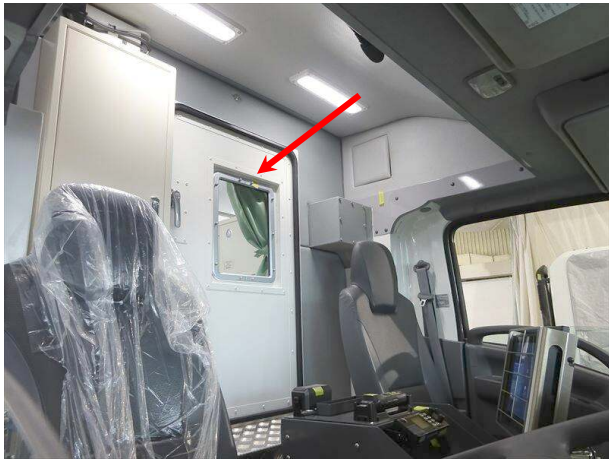
- ④車内の空気は、左右の排気ユニットを通りHEPAフィルターで濾過された後に車外排出。
175m³/h×2基=350m³/h
患者室圧は、約-2.5Pa（理論値）
- ・左右に排気ユニットを配置することで空気溜まり（喚起されない空気の溜まり場）が少ない構造を実現しています。



吸気ユニット
エアコン内蔵

排気ユニット
この中にHEPAフィルターが内蔵されています。





運転室と患者室間のウォークスルー部には
開閉扉式の隔壁が設けられております。

運転室側エアコンを外気導入にすると、差圧が更に
上昇し、メーターを振り切ります。

写真は、運転席側から見た様子（扉を閉じています）



↑ 患者室側から（扉閉）



↑ 患者室側から（扉開）



陰圧機能ばかりがクローズアップされがちですが、
昨今の海外からの来日者増加に備え、日本人よりも
体重の重たい患者様の搬送に耐える機能を持ちます。
下記の組み合わせで実現しています。

- ①防振架台 赤尾**VCS-03**（耐荷重285kg）
<https://akao-co.com/products/2860/>
- ②ストレッチャー FERNO 93HJ（耐荷重227kg）
<http://www.ferno-jp.com/product/93H-J/93H-J.html>



車体自体はエアーススペンションの装着で重体重に
対応出来るようになっています。

防振架台VCS-03の動き

通常位置右後



中間位置



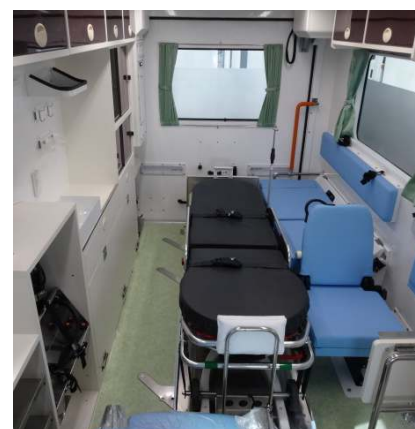
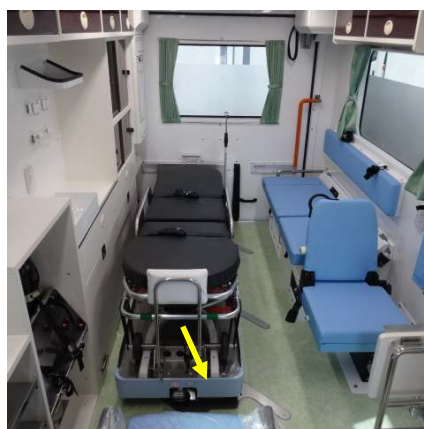
最左前位置



中間位置の時には、
患者の前後左右に均等に
スペースが広がりますので、
あらゆる方向から患者アクセスが



中間位置の時には、
バックドア側のスペースが
広がりますので、
脚の長い人にも対応可能です。



患者との距離が近づき観察と処置がし易くなります。



飛沫感染予防用のフードも備えています。
<https://akao-co.com/products/2871/>



患者室左側の座席です

前向き席と横向き3名シートです。
フラットにしてサブストレッチャーを搭載すると
2ベッドとなります。



2ベッド仕様時の落下防止策を追加しました。



患者室右側

低濃度オゾンガス発生器（左）と

プラズマクラスターイオン（右）を装備

AKAO 救急車 相談窓口

株式会社 赤 尾・特需部 救急担当
東京都千代田区外神田6-13-13
03-3832-2204